

伊奈忠次銅像
(羽生領島中領用排水路土地改良区内)

伊奈備前守忠次とは？

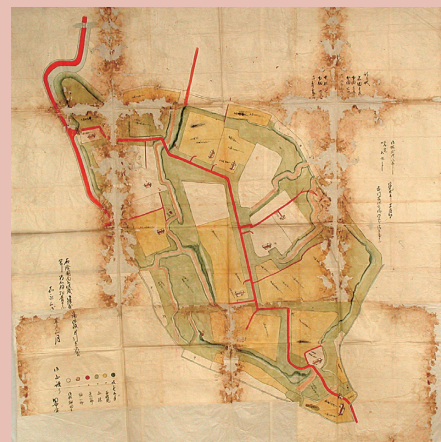
天文19(1550)年、伊奈忠家の嫡男として三河国幡豆郡小島(愛知県西尾市)に生まれました。初めは「家次」、のちに「忠次」と名乗っています。徳川家康の嫡男松平信康に仕えていましたが、天正7(1579)年信康が自害に追い込まれると三河を出奔し、父とともに堺にいた伯父貞吉の元へ身を寄せます。同10年の家康堺訪問中に起きた、「本能寺の変」の際、伊賀越えに帯同したと言われ、徳川家に帰参して家康の家臣小栗大六の与力となりました。その後、同14年の駿府移城に伴い家康の近習となり、五カ国総検地など民政において才能を発揮し重用されました。

天正18(1590)年の小田原北条氏攻めでは、駿河・遠江(静岡県)、三河(愛知県)三カ国の道路の普請や富士川の船橋の整備、軍勢の兵糧の輸送などを一手に担い、豊臣秀吉の信任も得ながら、地方巧者としての地位を固めました。

家康の江戸入封後は、武蔵国足立郡小室及び鴻巣において1万3千石(1万石とも)を与えられ、小室に構えた陣屋を拠点に、徳川家の関東支配の基礎作りに多大な功績を残しました。

慶長8(1603)年に江戸幕府が成立すると、全国支配のため代官たちを駆使して幕領の支配にあたるとともに、治水・灌漑工事や検地、新田開発、年貢收取など多様な農政や地方支配を行うようになりました。さらに、家康が駿府に移る同12年頃には、江戸の将軍秀忠政権の中枢に参画し、単なる代官頭としての立場を超えた年寄衆に近い役割まで果たすようになりました。

しかし、忠次は家康が名実ともに天下人となる大坂夏の陣より5年前の慶長15(1610)年6月13日に61歳で亡くなり、勝願寺(鴻巣市)に葬られました。

▲嘉永3(1850)年
小室陣屋内部の図(個人蔵)

伊奈忠次については、町で作成した伊奈忠次PR映像『伊奈忠次―関東の水を治めて、泰平の世を築く―』で詳しくご覧いただけます。



▲頭殿権現社(伊奈氏屋敷跡)

▲伊奈氏屋敷跡

400年以上前、徳川家康の命を受けて治水事業の陣頭指揮を執った人物が、町名の由来となった伊奈備前守忠次です。町には伊奈氏屋敷跡をはじめ、幅広い時代の歴史的遺産が点在しています。

More than 400 years ago, Ina Bizen-no-kami Tadatsugu, after whom Ina Town is named, was put in charge of flood control by the shogun Tokugawa Ieyasu. Starting with the site of the Ina clan's former residence, Ina Town is littered with historical heritage covering a broad range of eras.

▲本上遺跡環状
盛土遺構出土遺物

▲本上遺跡 第2次調査

本上遺跡からは「環状盛土遺構」と呼ばれる、全国でもめずらしい遺構が確認されており、当時の人々が長い年月、同じ場所で生活していたことがわかっています。

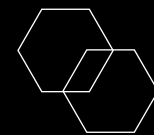
平安時代・鎌倉時代



▲木造阿弥陀如来坐像(西光寺)

▲絹本着色釈迦十六善神像
(法光寺)

縄文時代後期・晩期



縄文時代前期



▲小貝戸貝塚(清光寺)



▲十三仏板石塔婆(法光寺)



▲伊奈忠勝の墓(願成寺)

伊奈氏の3代目 伊奈熊蔵忠勝は、元和5(1619)年8月16日に僅か9歳で夭折し、伊奈家の菩提寺である同寺に葬られました。伊奈熊蔵忠勝の墓は、昭和43(1968)年3月1日に伊奈町指定文化財となりました。

近世



▲無形民俗文化財 下郷区の春祈祷(下郷区)



▲無形民俗文化財 中荻のお獅子様(中荻地区)